

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	10	学校名	静岡北特別支援学校南の丘分校	校長名	原田 満紀
------	----	-----	----------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
専 門 性	各教科のめざす姿を明確にした教育課程再編	<ul style="list-style-type: none"> 教科会で、新学習指導要領と照らし合わせ、年間指導計画上の課題を見ついたり、修正したりできたと教員 80% 図書コーナー、図書棚を活用し、積極的な利用を呼び掛けた教員 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価 88% 教員評価 100% 図書コーナーの環境改善に取り組み、生徒の図書委員会活動を中心として読書活動に取り組んできた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教科会で新学習指導要領の内容を確認しながら年間指導計画の見直し、改善につなげる取組ができた。次年度は、他学年との指導の系統性や教科等横断的な視点で学習内容を確認・修正をしていく。 図書委員会を中心に主体的に図書活用するよう工夫していく。
	「学び、考え、発信し合う」姿を引き出す授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 働き、生活することを自分事として考え行動することができた生徒 100% 授業作りで学習指導要領を読み、参考にした教員 80% 授業研究、OJT、SUT で学んだ知識や技術を活用して、授業をした教員 90% 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の良さや課題に気づき、目標を立てることができた、または概ねできた」と回答した生徒 96% 「授業が分かった、役に立ったと思う、またははだいたいそう思う」という生徒 89% 教員評価 94% 教員評価 94% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高等部に来て、国語や数学を好きになったという意見もあり、「好き」になることを入口に学びが生活に役に立つ実感を持てるようにしていく。 機会をとらえて学習指導要領を読み、授業作りに取り組むことができた。次年度は教科会で作成している年間指導計画新様式を入口に研修を重ねる。 次年度は、自立活動を中心にした OJT, SUT の取組を行っていく。
	業務のスリム化と教職員の時間への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 定められた定時退勤日以外にも、定時に帰宅した日があった教員 80% 交通事故事犯 0 件 セクハラ、パワハラ 0 件 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価 89% 交通事故 2 件 生徒 1 件、 教員 1 件 セクハラアンケート 1 件 	C	<ul style="list-style-type: none"> 行事によって遅くなる月もあったが、多くが定時での帰宅を心掛けていた。少ない人数での学校経営のため業務の重複もある。その中でも業務の精選・見直しをしていく。 自転車・自動車運転の交通安全指導を重ねて行っていく。 不祥事根絶に向け、研修を重ねていく。

<p>安全・安心</p>	<p>自分の安全と健康を守る習慣と環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の命の大切さを理解し、前向きな行動ができた生徒 90% ・系統的、段階的な体力向上に向けた指導ができた教員 90% ・実態に合わせた性に関する授業や指導が実施できた教員 90% ・新体力テスト2種目の平均を2点上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に安心して通えていると回答した生徒 96%、学校は楽しいと回答した生徒 84%となっている。 ・教員評価 100% ・教員評価 100% ・1.5点上昇 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・救急法講習会や防災学習、の指導等で命の大切さ、自分の身を守ることを学習できた。今後も、生徒が「学校が楽しい」という関係性作りを意識していく。 ・実態別トレーニングや系統的、段階的な体力づくりを実施できた。また、生徒からも「知ることができてよかった」という意見も多く聞かれる。今後も実態に応じた学習を組んでいく。 ・新体力テストについては目標に届かなかった。次年度は、生徒自身が主体的に体を動かすことができるよう、運動の仕組みや競技の特性、文化、歴史などスポーツ概論、体育理論を取り入れた授業を行っていく。
<p>連携</p>	<p>分校の存在感の発信と地域活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がよく分かったという保護者、参観者 100% ・交流活動が理解啓発となった外部関係機関 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート 95%、参加者アンケート 99% 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、中学生向けの学校公開が進路を考える一助となるようにしていく。また、情報発信の方法を工夫していく。
<p>連携</p>	<p>進路希望実現に向け、本人が納得して進む進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を得ることができ、学校と連携したと答える保護者 90%以上 ・研修が役に立ち生徒の学びが深まったと答える教員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート 95% ・教員評価 94% 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談等を通して、進路や職場実習、生活面での必要な情報を得ることができたと回答。保護者の悩みや必要な情報については、今後も担任だけでなく、学年、学部で情報共有して当たっていく。 ・生徒アンケートより、「分かった、役に立った授業があったか」の質問に、職業、職場実習、作業学習をあげた生徒が45%だった。次年度も、職業科を窓口とする研修課と連携して授業に臨み、生徒の学びを深めていく。

- A：十分目標を達成することができた
- B：おおむね目標を達成することができた
- C：あまり目標を達成することができなかった
- D：ほとんど目標を達成することができなかった